

A層～D層についてもっと知りたい！

A層～D層の値って何のためにあるの？

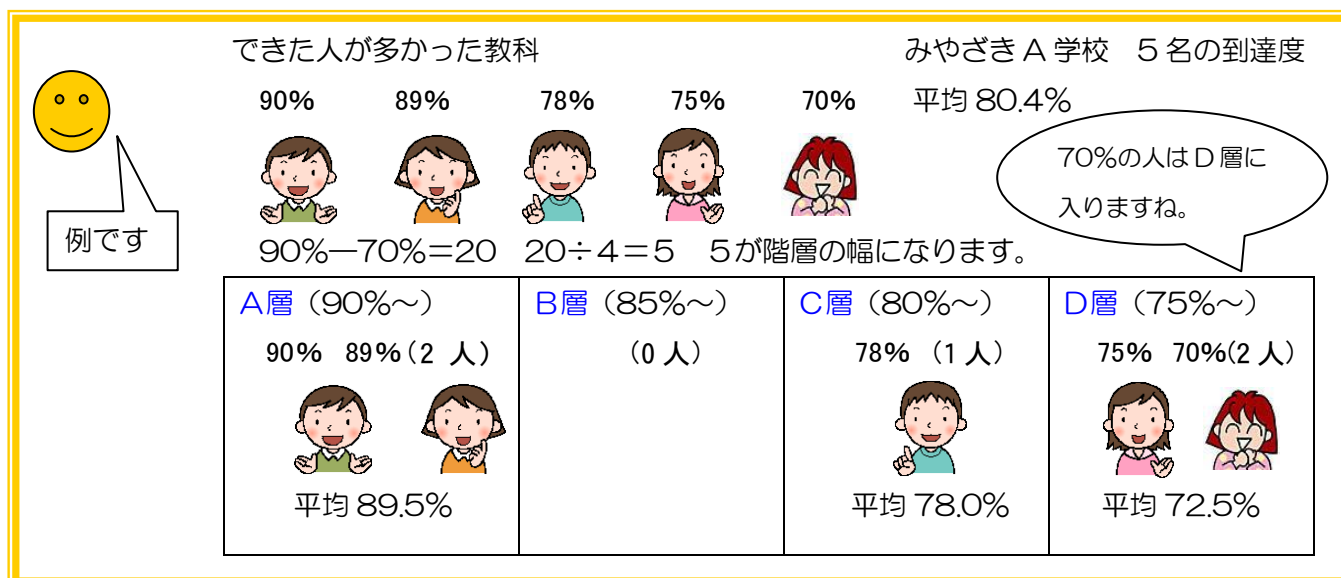
みやざき小中学校学力調査は、教科によって問題の数や内容が違います。また、結果は得点ではなく到達度(できた割合%)で表しています。ですから、結果が出たときに、問題ごとの到達度や個人差の大きい問題はどれかなど、集団や個人で比べるための目印となるよう示しています。

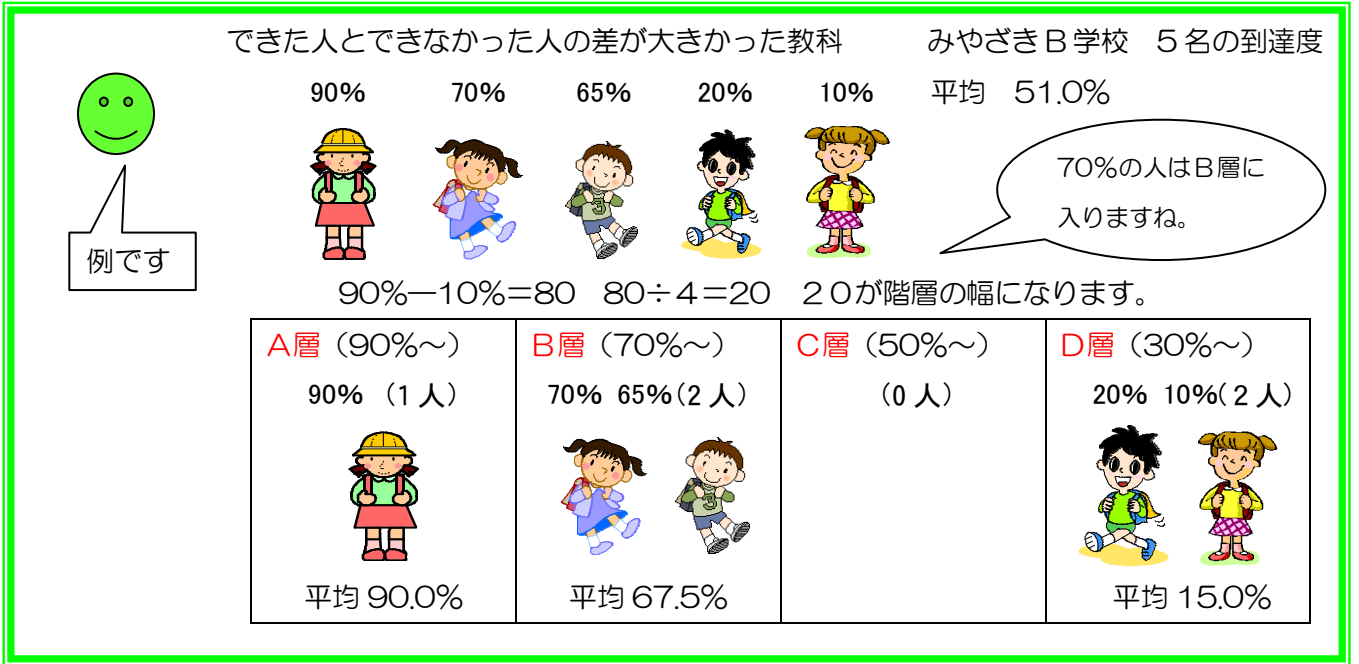
- A層～D層の値は、同じ教科や教科どうしにおける定着の違いを比べるための目印になるものです。
- 全教科のA層～D層の結果と、意識調査の結果とを比較することで、「このテストができた人はこんな意識をもって生活している傾向がある。」等、学力と意識との関連を見つけるための参考にすることもできます。

A層～D層ってどうやって求めているの？

簡潔に言うと、最高点(到達度)と最低点(到達度)の範囲を上位から4等分して、A～Dとしています。

- 教科ごとに個人の到達度を出して、集団ごとに最高点(到達度)と最低点(到達度)の範囲を求めます。
- 求めた範囲を4等分して、階層を決めます。最も高い層から順に、ABCD層となります。





A層～D層は、集団や教科ごとに、個人の到達度を使ったクラス分けのようなものです。単純に人数で均等に分けたものではありません。

A層～D層の分け方はいくつあるの？

教科ごとと、全教科を合わせた結果で、A層～D層をそれぞれ求めています。つまり、下の表のように、小学校は5通り、中学校は6通りあります。

		A層	B層	C層	D層
小学校	国語				
	社会				
	算数				
	理科				
	4教科				

教科ごとの分け方は、教科ごとの全体概要や設問別通過率で利用されています。

		A層	B層	C層	D層
中学校	国語				
	社会				
	数学				
	理科				
	英語				
	5教科				

全教科の分け方は、意識調査の結果分析で利用されています。

A層～D層の数値でどんなことがわかるの？

全体概要【資料1】では

県全体の各層の中に、何%の児童生徒がいるのかがわかります。

教科別概要【資料2】では

県全体の各層に入っている児童生徒の中で、何%の人ができたのか（平均到達度や達成率）がわかります。

設問別解答状況一覧【資料3】では

県全体の各層に入っている児童生徒の中で、何%の人がその問題ができたのか（通過率）がわかります。また、例えばA層とD層の中で、できた人の割合の差がわかります。

個人の成績表【資料7】では

個人の到達度が、県全体のA層～D層のどの階層に入っているかがわかります。

※印の意味 A層…◎（よくできる） B層…○（できる）
 C層…△（ややできる） D層…▲（がんばろう）

どんなところを見て分析すれば、何がわかるの？

【資料1では】

- 県全体のA層～D層に、何%の児童生徒がいるかによって、できた教科とできなかった教科がわかります。
- A層～D層の割合を、教科で比べると、教科によって、上位層と下位層のどちらが多い傾向にあるのかがわかります。

【資料2では】

- 観点・領域・分類の項目において、平均到達度や達成率を比べると、教科ごとに、できた（できなかった）観点・領域・分類がわかります。

【資料3では】

- 各設問を通過した割合（通過率）が、高い（低い）ことで、できた問題（できなかった問題）がわかります。
- A層とD層の差が大きい問題は、できた児童生徒とできなかった児童生徒の差が大きい傾向の問題であることがわかります。

【資料8では】

- 授業、学習、生活、自分に関する意識調査において、A層とD層の差が大きい設問は、学力調査の結果と関連が深いことがわかります。